（別紙４）　　平成　22　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1971000011		
法人名	社会福祉法人愛寿会		
事業所名	グループホームやすらぎ		
所在地	山梨県北杜市長坂町小荒間１２９３		
自己評価作成日	平成２２年１１月１１日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-yamanashi.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新１－２－１２
訪問調査日	平成22年12月７日（火）

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

年々、平均年齢・認知症の重症度も上がって来ているが、日中は、ほとんど離床して生活されている。ADLも下がって来ており、外での活動は困難になってきているが、女性も多い為、人生経験を活かすよう手芸等に多く取り組んでおり、年に1回ねんりんピックの作品展に出品や、家族会でのおみやげ作り、地域の子供達との交流時の手みやげ作り等を通し、生活の目標と結びつくような生活援助を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

ホームの共有空間であるホールは日当たりが良く、高台のため見晴らしも良い。このホールで作品作りや食事をしている。テーブルを使用しているが、いくつかのテーブルを組み合わせて、形を変えたり移動もでき、部屋の一か所にこだわらず分散も可能で、個々の利用者の希望にそって、自由に食事が取れるような工夫がされていている。、日程などの意見を反映しているため、家族の行事参加が活発である。重度化への対応については、併設施設と連携を取る一方、入院などによる退去後にグループホームに戻りたい場合には、入居の順位を優先するなどの配慮がある。市町村の担当者から家族への制度説明や、事業所運営についてのアドバイスがあるなど、行政との連携も取れ、より良い支援につなげていることが感じられる。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果　　事業所名 グループホームやすらぎ

（セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー））

自己	外部	項　目	自己評価（実践状況） ユニット名（　　）	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ワーカー室及び廊下に理念を提示し、話し合いの時間を確認し、理念に基づいたサービス提供に努めている。	利用者本位のケアが出来るように、毎日昼休みの時間、管理者と職員が理念の共有するための話し合いを行っている。廊下等にも掲示して意識を高めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会には加入していないが、地区の芸能祭や保育園の運動会に参加している。また、夏祭りには地域へ声かけをし、交流を図る事に努めている。	併設している施設と合同で開催される夏祭りなどの行事には、民生委員や地元から通勤している職員を通して、地域に呼びかけて交流している。保育園の運動会など、地域の行事には招待があり出かけている。	自治会への加入など、地域との関わりを深め協力しあえる体制をとれるような働きかけを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同法人内のセンターの利用者との交流を通じて、地域の人々にホームに気軽に来訪して頂ける様、取り組んでいる		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催し、事業報告・行事報告・行事予定等の報告を行い、そこで課題等話し合い処遇の参考としている。	運営推進会議は2か月に一度開催している。家族会代表・市の職員・民生委員が参加し、実践等の報告をしている。事業所運営についてアドバイスを受けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域の社会福祉協議会や地域包括支援センターとは、情報交換の機会を多く設けている。	市の担当から家族への制度説明や、施設の空き情報、困難事例の利用者について相談できる体制がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、外出に見守りが必要な方が2名入居となり、錠の工夫をし施錠を行っている。	出入口に「音」の出る飾りものを取り付けるなど工夫して取り組んでいる。入居間もない利用者には、併設施設に写真を配り本人確認と居場所確認の協力をお願いしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	施設内の虐待防止委員会での内容を、グループホームに持ち帰り、話し合いの時間に、しばしばテーマとして取り上げ話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用	グループホーム内の勉強会や併設の特養・デ		

自己	外部	項　目	自己評価（実践状況） ユニット名（　　）	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	イサービス・ショートステイ担当者との合同学習会で、知識を共有して活用できるよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申込時・入居の意思確認時・事前訪問時など、入居前に何度も本人・家族と話し合い、不安の解消に努め、入居後も面接時の他、毎月お便りの中で状況報告を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人の苦情解決委員、第三者委員の活用について説明し、意見を反映できる体制を整えている。 外部に向けての方法としては、苦情解決委員会や第三者委員について説明を入居時に必ず行い、日々のご意見については、面会時に必ず声を掛け話しやすい状況を作っている。	苦情、相談については、施設長が法人内の苦情委員会の一員であり、委員会で出された改善点については職員ミーティングで共有している。利用者、その家族に対しては、相談、苦情の申し出方法について契約時に説明をしている。	契約時に苦情、相談についての窓口や担当者の明記してある文書を配布するなど、相談しやすい環境づくりを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見の提案制度が作られ、日頃の話し合いの時間にも職員が参加している。	職員は管理者と話しやすい環境にある。提案された有給休暇についても外部の協力者導入で取得しやすくなり、意見等反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の為、外部により講師を招いて研修会を行ったり、努力に報いる年度末手当、資格取得による特別昇給規定がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の各研究委員会に配属しており、それをグループホームに持ち帰り研究報告をしている。 外部の研究会にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会の研修に参加している。		

自己	外部	項　目	自己評価（実践状況）	外部評価	
			ユニット名（　　）	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み後、入居の意思の確認・事前訪問・入居決定後説明と本人や家族と会う機会を多くし、コミュニケーションをとっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居までに何回か面接を重ね、また、家族の相談に乗りやすいよう連絡を密に取っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の状況について、家族が他の利用しているサービスの担当者とも連絡を取り合い、利用者にとってベストの状況は何かを話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員間で情報交換を密にし、本人の意思を最優先に、それぞれの人生経験を活かせる働きかけに努めている。とくに若い職員は利用者から教わることが多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居前より多くの職員が関わるように心掛け、家族の情報も共有し、共に喜んだり心配できるよう努めている。		
20	⑧)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外部からの面会者が訪れやすい状況をつくるため、声かけを多くし、その方とも馴染みの関係を作るよう心掛けている。	併設の通所介護や短期入所の施設を利用している友人を訪問するなど、馴染みの関係の継続に配慮した支援が行われている。訪問者が多く、職員一人ひとりも快く接している。部屋には、自宅で使用していたものや趣味などの飾り物が置かれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	人間関係を職員間の情報交換により把握し、理解ある仲介者となれるよう心掛けている。		

自己	外部	項　目	自己評価（実践状況） ユニット名（　　）	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居し特養入所後、永眠された方には職員で御焼香にいったり、特養入所された方は、行事等で会う度に、家族にも声掛けを行っており、退居された家族も「やすらぎ」へ立ち寄って下さっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	レクレーションや作業時、何種類か選択肢をその都度提示し、本人の意思を尊重している。	個人の力に応じたレクリエーションや作業を心がけている。本人意向の把握に努めている中、行事参加の利用者が普段以上の力を発揮している状況も見られ、本人のレベルアップにつながっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話、家族からの情報収集により生活歴を把握し、日常のサービス提供のきっかけや指針としている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルの定期的測定や生活状況の記録により、職員間で話し合ったり、共通理解できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日モニタリングし、職員間で話し合い、家族には面会時、説明確認し、意見を伺うようにして以降のサービスに反映できるよう心掛けている。	職員間で毎月モニタリングをしている。ケース記録や日誌の中で目標の達成、継続について、それぞれ細やかに話し合い検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々当番が全員の個別記録を行い、週ごとにそれぞれの担当者がまとめ、急変時や見直し時に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入浴困難時に特別養護老人ホームの座位浴を利用したり、外出時等、職員の交流を図っている。		

自己	外部	項　目	自己評価（実践状況） ユニット名（　　）	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア等との交流は出来るだけ自由に、地元の小学校や保育所は行事参加をお願いし、地域とのつながりを意識していただけるよう心掛けている。		
30	(1)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	特別養護老人ホームの嘱託医が主治医となっている場合は、定期的に状況報告し、助言をもらっている。 外来受診される方には、最近の様子を書いた文書を持参し、返事やアドバイスをもらっている。	嘱託医が毎週火曜日に往診している。外来受診の際は、様子や状況の書かれた文書を手渡し、受診後は医師から返事やアドバイスをもらっている。協力病院での入退院時には、ケースワーカーにも関わってもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	少しの変化も医師に相談している。必ず様子を看護師にみてもらい状況により、医師と連絡を取っている。医務の看護師は入居者の状況について、担当職員と同じように把握している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、病院のソーシャルワーカーから密に連絡があり、状況報告・通院の調整・退院後は病院の各担当者（リハビリ担当等）と連携を取り合っている。		
33	(2)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化やターミナルへの対応については、運営委員会で話し合い、日頃、家族にも話している。また、体調の変化がある方については、状況をまめに家族・医師に報告し、相談しながら対応している。グループホームでの生活継続の目安については、運営委員会にて話し合っているが、ケースにより異なるので、関係する人との連携を図り、その都度相談し、対応を検討し利用者にとって最良の対応を考えている。	重度化や終末期に向けての対応は、運営委員会で話し合っている。入居時には併設施設に同時入所申込の対応もしている。入院などによる退去後、認知症が進む不安があるので本人・家族の希望としてホームへ戻りたい場合は、入居の順位を優先している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応については、マニュアルをわかりやすい所に準備し、職員間では常に確認し合っている。		

自己	外部	項　目	自己評価（実践状況） ユニット名（　　）	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(3)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に1回地域の消防団に来てもらい、合同訓練を行っている。毎月1回事業所の防災対策委員会に参加し、グループホームに戻り職員に伝えている。	年に一回、併設施設合同で地域の消防団の協力で訓練を行っている。夜間になると職員が一人体制になるので、併設施設より応援協力体制を築いている。	地域住民と自治会消防との関わりや協力を深められることを期待したい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(4)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇委員会からのスピーチロック表を基に、言葉かけには職員が常に認識し、声かけの仕方の話し合いを日常的に行っている。個人情報についてはワーカー室で管理している。	接遇委員会からのスピーチロック表を室内に掲示して意識を高めている。口調や声かけについても話し合いがされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけと傾聴に努め、本人の希望が活かせる支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由な選択肢が出来るように選択肢をいくつか用意し、選択が困難な方には、その方に合わせた働きかけを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室の予約送迎を希望者に行っている。毎朝身だしなみの時間を設け、化粧水クリーム等、鏡と櫛と一緒にワゴンに用意し、自由に使える状況を作っている。		
40	(5)	○食事を楽しむことのできる支援 う	メニューを作る段階で、季節感を大事にし、個人の好みを聞いている。毎日それぞれの力に応じて手伝ってもらったり、役割分担しながら準備片付けを行っている。	週間の献立作りに利用者の意見を反映させるなど、食への関心を引き出す工夫がされている。個人の力に応じて調理や配膳をしてもらっている。食事制限のある利用者には、他の利用者に配慮しながら職員が量を調整している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取の適量については、本人の希望に添って提供したり体重の増減、体調等を話し合い加減している。メニューについては担当が1週間交替で作成し、それについて話し合いをして職員同士でアドバイスをしている。		

自己	外部	項　目	自己評価（実践状況） ユニット名（　　）	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員歯みがきを行っている。毎週月曜日には、義歯を消毒液につけて清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方には、排泄の記録により排泄パターンを把握し、その人に合った声かけや誘導介助を行っている。	排泄は自立しており、おむつを利用している利用者はいない。トレーニングパンツの利用者には、職員の言葉かけ誘導でトイレで排泄している。夜、不安な利用者はポータブルトイレを居室に用意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを把握しながら、便秘時は水分補給や腹部マッサージなど話し合いながら実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日15：30～18：00迄、職員1名が見守り介助し、いつでも入浴できる体制をとっている、毎日でも本人の希望により入浴できる。	毎日職員1名が見守りをして入浴している。介助が必要な場合は2名で行っている。座浴にも対応している。入浴拒否の場合は、適切な言葉かけをし、入浴を促している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間も一人ひとりに合ったものとなるよう希望に沿って対応している。夜間2時間毎に巡視確認、訴えに対応できる状況をつくっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服については一覧表をつくり、職員間で知識が共有できるようにし、配薬と内服時に、それぞれ別の職員が確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時のアセスメントと日々の会話を通して、これまでの経験が活かせるレクリエーションの設定を行ったり、役割分担したりしている。		

自己	外部	項　目	自己評価（実践状況） ユニット名（　　）	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	園の敷地内や別のフロアも自由に歩けるように、いろいろな部署に写真を見てもらったり、本人を紹介したり、園全体で見守りすることにより、自由に活動している。	敷地内を自由に行動出来るように、本人確認の写真を利用して協力してもらっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いを手持ちで管理されている方と、落ち着くために手元に少額持たれている方と、ワーカーが管理している方がいるが、買い物に一緒に行き自由に使える体制をとっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由にやりとりしていただけるよう、両替や切手の購入、投函等援助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ裏は遮光カーテンとし、季節の花を常に飾るように心掛けている。	遮光カーテンを利用し、光を調整している。天気の良い日は暖かく室内が明るい。季節行事の際に作る展示物や日常生活の写真を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを置き、好みで利用出来るようにしている。ソファーやテーブル等を何箇所かに置き、集える空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、使い慣れた家具や私物を持ち込んでいる。日々の生活の中での作品やカードなども飾っている。	入居時には、使い慣れたもの、趣味にしていたものなどの私物を持ってきてもらい、日々の生活の中で作った作品など飾って心地よくなるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	物の配置の工夫により、手すり等を活用しやすくしたり、作業台の高さ等工夫している。		